



京傳
石白
玄

上
履
の
し
り
し

特別
~ 5
6046



15
446

56-4095

世は梅風乃とそふにつきてう
 まのどしれまはるまはえんしや
 そこの心の葉よちいとたきか
 かまへんはたむかひ乃塵をらと
 へ〜ふ羽帯とそよのむす
 かりぬ〜わ〜さ〜せつ
 へ〜む〜わ〜と〜ぬ〜な〜獨
 へ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 う〜れ〜も〜お〜う〜い〜と〜ま〜す〜も〜く
 ひ〜終〜る〜と〜懐〜く〜と〜西〜山〜宗〜因
 蚊〜柱〜乃〜百〜句〜此〜誰〜塔〜ら〜り〜か
 ら〜ま〜し〜〜〜〜〜〜〜の〜作〜ゆ〜
 く〜ひ〜〜〜〜〜〜〜ふ〜ら〜ぬ〜
 へ〜く〜ま〜出〜く〜ひ〜竹〜の〜ゆ

うあうまうまうまうまうまうまうま
うまうまうまうまうまうまうま
うまうまうまうまうまうまうま
うまうまうまうまうまうまうま
うまうまうまうまうまうまうま
うまうまうまうまうまうまうま
うまうまうまうまうまうまうま
うまうまうまうまうまうまうま
うまうまうまうまうまうまうま
うまうまうまうまうまうまうま

花さすり一野は月あかりなり
らげきさひの都をさへくはな
み乃あけしうさそと月あめ
さふなり一宮いはず本乃おとれた
まかひかまひかまひにげ
付向よばけしうさそと月あめ
うまうまうまうまうまうま
のるしうまうまうまうま
ひしげさうまうまうま
橋よりうまうまの邪魔とな
さうまうまうまうまうま
うまうまうまうまうまうま

勢こそ〜ふはわ〜はひ
志ハ人乃向此是と非とも
さう〜かかなわ初公乃書
〜と批判よを紙う〜とし
ちめらるるはまうん事跡
ひの〜をい〜か〜と記
う〜う〜う〜んされは
ま人とあす〜はとす
あま〜わ〜う〜い〜入と
く〜とも小成佛の縁よと
とらぶ園とらつをて蚊
弁と〜と物あ〜
于時延寶貳年誕生下旬

あぶ園



蚊檀小大裾屑とらふたうか

いぬぬやう〜大裾屑と風
た〜〜とそれが蚊檀とら
いぬ事〜と〜と〜と〜と
大裾屑とらと〜と蚊檀火の用
は事〜とらと〜と〜と〜と
う〜とら〜と〜と〜と〜と
ま〜と〜と〜と〜と〜と
て〜と〜と〜と〜と〜と
そが〜と〜と〜と〜と〜と
と〜と〜と〜と〜と〜と
大裾屑とらと〜と〜と〜と
とらと〜と〜と〜と〜と

としをわてるのま肺肝とらんが
 むしをまじりまをいふるよ
 くあらひの路くはむよふき
 ぬくめーとあはなごーとあきた
 らひをいふるよ

から紙砂子に海の涼風

蚊柱の涼風をほく周事一向
 いまれらるるく蚊柱とらん蚊
 のまを集くころう柱のよと
 ゆり紙より風の吹ゆかたわ
 のまら物なわらび扇團の風を
 らひをいふるよ
 むし砂子とらんよ
 むしーとらんよ
 やまよか合るよ

酒いふ喉道酒ふ月あう

先年秋月のもやうく月あう
 としひち月あう
 なうあなまなう酒の喉道
 むしひち月あう

さしをいふるよ
 なう酒あうよ
 むしひち月あう
 なう酒あうよ
 むしひち月あう

はしをいふるよ

むしひち月あう

よもはけりしとて花の心は
しと見えぬ

花の心はけりしとて花の心は
よもはけりしとて花の心は
しと見えぬ

花の心はけりしとて花の心は
よもはけりしとて花の心は
しと見えぬ

花の心はけりしとて花の心は

花の心はけりしとて花の心は
よもはけりしとて花の心は
しと見えぬ

花の心はけりしとて花の心は

花の心はけりしとて花の心は
よもはけりしとて花の心は
しと見えぬ

何れもあつてはきりきり

きりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきり

人さうしてあつてはきりきり

何れもあつてはきりきり
金六つあつてはきりきり
とて強うあつてはきりきり
蟻の軍するはわれと丁金の軍
はるるはきりきり
てのきりきりきりきり
とれきりきりきりきり
はるるはきりきり
はるるはきりきり
はるるはきりきり

秋まぶのほほほほほ

あつてはきりきり
わつてはきりきり
のきりきりきりきり
はるるはきりきり
はるるはきりきり
はるるはきりきり
はるるはきりきり
はるるはきりきり
はるるはきりきり
はるるはきりきり

貞光末武まきりきり

千載の丁金のけりきり
推してはきりきり
あつてはきりきり
あつてはきりきり
あつてはきりきり

七十のむらさき
らんらんらん

紅雲のり美草のり

一曲のり美草のり
あつたのり朝はけの盛
やんののり美草のり
事よも貞光末武のり
わんわん又貞光末武のり
のり美草のり
らんらんらん

割付の状をこれり

美草のり
らんらんらん
割付のり
らんらんらん

一面のり
割付のり
らんらんらん

孫脱らば

一面のり
らんらんらん
孫脱らば
らんらんらん

九葉のり
らんらんらん
らんらんらん

九葉のり

石成神とすきな神とす
 と高古いものなり
 下なるものなり
 うぬぬぬぬぬぬぬぬ
 高なるものなり

花の首のり
 首のり
 首のり
 首のり
 首のり
 首のり
 首のり
 首のり
 首のり
 首のり
 首のり

蓬萊包火のまじふ刀

付公のやまなり
 えの蓬萊包火のまじふ
 刀とのまじふ
 かまじふ刀とのまじふ
 海とまじふ
 うまじふ刀とのまじふ
 ぬぬぬぬぬぬぬぬ

あつたの尾流のまじふ

かつたのまじふ
 まじふ
 まじふ
 まじふ
 まじふ
 まじふ
 まじふ
 まじふ
 まじふ
 まじふ
 まじふ

盗人うんざり治るにあり

素来ては盗人もなれりといふ
是一いつく者民則其恒産因食
恒心人極て盗するも其の恒産もよ
ほりの一もわきびさうすも年の
暮ゆきの暇に一もいふ一もいふ
をうもあうらんうはわのた
ま盗人のかたし治るにあり
一もいふ一もいふ一もいふ
いふよひ一もいふ一もいふ
ひとく一もいふ一もいふ

わが心は静かなるにあり

カコユケフカマ
諫鼓答深も不驚るといふを
竹のわきとてわらひ鼓はさう

いふよひ一もいふ一もいふ
んをいふ一もいふ一もいふ
と民のいふ一もいふ一もいふ
くも下春平に治るにあり
と一もいふ一もいふ一もいふ
も一もいふ一もいふ一もいふ
鼓と一もいふ一もいふ一もいふ
句の既より一もいふ一もいふ
いふも一もいふ一もいふ一もいふ
いふも一もいふ一もいふ一もいふ

わが心は静かなるにあり

曉とわらひ一もいふ一もいふ
の村をわらひ一もいふ一もいふ
いふも一もいふ一もいふ一もいふ
いふも一もいふ一もいふ一もいふ
いふも一もいふ一もいふ一もいふ

西白くまのきんぐらん併新
の葉菜のけ射と焼くのては
ととひわくわたり

それの煙乃のさ物うら

射と焼くさわ焼く林と事
なれと也葉向とくての向
わくさ向の葉もさ

松がく煙乃の射はくわ

みんま向よ用がく一前向の煙
よつまんとあ斗よひわく
是く焼く椒家なつて三野とん
わの葉合わらるの煙わて集
とてはさよとんははんか
くささくさくさくさくさく

わくくさあわをわわくは
くわさくさくさくさく

吳見乃のく煙乃のさ

三野のつんわくは
見のさくさくさくさく
えの椒赤煙のさ物焼よつん
えさくわを焼けてよまはに吳見の
わくさくさくさくさく
よ吳見のさくさくさく
ひまなははんあさく

それの煙乃のさ物うら

はくさくさくさくさく
のさくさくさくさく
さくさくさくさくさく

枝なりつゝ〜うぢうぢあぢあぢあぢあ
〜いぢあぢあぢあぢあぢあぢあぢあ
〜いぢあぢあぢあぢあ〜

三河の浪人(おかしな河も)

浪人のおかしな河もまきま
わらわらうらうらおかしな河も
めくまをなご〜まきまの年一
かりおかしな河もまきまの河も
一他浪人もまきまの河もはわら
〜まきまの河もまきまの河も
まきまの河もまきまの河も
〜まきまの河もまきまの河も
浪人梅よまきまの河もまきまの河も
まきまの河も

浪月代をまきまの河も

浪人の浪月代をまきまの河も
まきまの河もまきまの河も
〜まきまの河もまきまの河も
〜まきまの河もまきまの河も
〜まきまの河もまきまの河も

おかしな河もまきまの河も

おかしな河もまきまの河も
〜おかしな河もまきまの河も
〜おかしな河もまきまの河も
〜おかしな河もまきまの河も
〜おかしな河もまきまの河も

ねいよもふんじりまへしけりたむ
とらふしつふふ井こへ候人
まへにせむしにむめりまへ

張子いづ程のまなかりん

い張子あわれりまなかりん
はまの程のまなかりん
ふんじりまへしけりたむ
つらいつらいつら

れまへに張子いづ程のまなかりん

つらいつらいつら
つらいつらいつら

順乳あつしあまの死

順乳あつしあまの死

つらいつらいつら
も勝よまへしつらいつら
順乳あつしあまの死
もなつて世の中は張子いづ程のまなかりん
事も張子いづ程のまなかりん
つらいつらいつら
えつらいつらいつら
つらいつらいつら

物いづれは津波もあつらん

補陀樂の歌もの津波もあつらん
あつらん津波もあつらん
つらいつらいつら
つらいつらいつら
つらいつらいつら
つらいつらいつら
つらいつらいつら

三十一代初よりひて夫と稱
て大治とよむりありて
も初より代初とありて
らん三十一月と夫と
よむれども終りて

道ゆりありて
初のち終りて
らちもやうと

初祖大師養海方室

一向は初祖大師のりり養海方
室うらむとてんや
向は初祖のりり養海方室
とて

唐と天竺がうり徳白

又をうりて唐と天竺あり徳白
の風味のうりて唐と天竺
あり徳白と養海方室
海方室と徳白ありて
伝てうりて

沙流と天竺がうり徳白

三十一の聲とてんや
天竺の徳白と養海方室
ありてうりて

誰のひまも貞女ありて

小学二十而嫁有故二十二年而嫁
とありて
はありて
とありて

のちも花々の内刻み神とひ
くお情もあまほしきをいんるも
いふ事小あらし又花をせんごよ
もたつぬすこやこの娘よりいれ
むとて貞女とのふごあもわれ
列女傳婦人一醮不改夫死不嫁執
麻象治絲繭織紵組紃以供衣服
以事夫室澁漠酒醴羞饋食以
事舅姑以專一為貞以善從為
順と云三句よ貞女とのふごあも
かく初句よさうよりあもほは
知とていん事ゆきにはわら

筒舟ついで舟の車本巻に
申さ乃の心をいふもわらん車本
まはぬいんるこ

いりて今ふむは尻籠

紙軍乃をわつてはてふゆ

よの好事を紙軍の舎をわらうま
へと海舟花柳のわりのいんる
かろが今年いま直海なる西風又か
れとすくゆるいんる世のいんる又
ゆいんるいんるとてはてはて
まをりこやわらう

花はくたうとてはてはて

是をそわいと合意をわらわつて
て又ゆいんるいんるあもわら
らとてはてはてはてはてはて
まをりこやわらう

彼岸もよき事なる事にて

いふ事なる事とてこれれ
のうあふは眼にて見る事

去處を母にたふしられた

あふれうする事なる事

うはれうする事なる事

一すうの事なる事

いふ事なる事

とて見る事

あふれうする事

とて見る事

あふれうする事

とて見る事

いふ事なる事

あていし事なる事
あふれうする事

そく事なる事

あふれうする事

あていし事

あふれうする事

いふ事なる事

あふれうする事

あていし事

あふれうする事

あていし事

あふれうする事

清く事なる事

あふれうする事

りふくあきあふませりふくあきあ
に年をてまてすまふくあきあ
とくれいごあつあ合よる国ま
よかあふくあ判者のりふくあ
て後とあー恨まわらふくあ
乃よかあふくああふくあ
まき那ともあふくああふくあ
あふくああふくああふくあ
とくあふくああふくああふくあ
とああふくああふくああふくあ

抱りくくくくくくくくくくく
あふくああふくああふくああふくあ
いふくああふくああふくああふくあ

先様よあふくああふくああふくあ
あふくああふくああふくああふくあ

うあふくああふくああふくああふくあ
あふくああふくああふくああふくあ
あふくああふくああふくああふくあ
あふくああふくああふくああふくあ
あふくああふくああふくああふくあ

萩つくくくくくくくくくくく
あふくああふくああふくああふくあ
いふくああふくああふくああふくあ
あふくああふくああふくああふくあ
あふくああふくああふくああふくあ

神も照法んあふくああふくあ
あふくああふくああふくああふくあ
あふくああふくああふくああふくあ
あふくああふくああふくああふくあ
あふくああふくああふくああふくあ

三
からうられも宗かんを
のうらめうらめうらめ
らうらにふ序全般の結構も
むいあむいあむいあむいあ
しあむしあむしあむしあむ
あむしあむしあむしあむし
しあむしあむしあむしあむ
あむしあむしあむしあむし
あむしあむしあむしあむし

数ねとふとねとふとねとふ
物のなまむいむいむいむ

玄法師

函山文庫



